

【灯】 「カタカナことば」
<2023/9/27 大分合同新聞掲載>

日本人は、外来語を使いこなすことにかけては天才的だと思います。海外の言葉をカタカナにして取り込み、そのまま使ってしまう。今では「カタカナ禁止」がゲームや余興の題材になるぐらい、外来語は身の回りにあふれています。

しかも、言葉をただ輸入して使うだけでは終わりません。カタカナにした言葉を、元々の音節などお構いなしで切断し、一部を省略してしまいます。エアコン、パソコン、リモコン、スポ根など、例を挙げればキリがありません。以前、日本語勉強中の知り合いが大笑いした言葉が「筋トレ」。彼いわく、トレーニング (training) を a と i の間でぶった切る発想はネイティブには浮かばないそうです。

「スマホ」も面白い言葉です。元々は smartphone、スマートフォンと表現する場合も多いですが、略してスマホ。p で始まり、発音は f の単語を「ホ」の一文字で片付けてしまうのだから、びっくりです。

でも、こういう外来語の使い方は、外国語を習得する際の妨げになるのではと心配になります。例えば英語では、f や th など日本語にはない音の出し方があったり、子音ばかりで音が構成されたり、アクセントが大切だったりしますので、カタカナ英語、特に省略形を使うのは控えた方がよさそうに思うのですが、どうなのでしょう。(日本銀行大分支店長)